

[11] 九州大学農学部農場研究資料表紙総括等

<https://hdl.handle.net/2324/12566>

出版情報：九州大学農学部農場研究資料. 11, 1989-03. 九州大学農学部附属農場
バージョン：
権利関係：

昨年度事業の総括

昭和62年度農畜産物生産実績

品 目	作 物	機 械	果 樹	施設園芸	畜 産	研究部長
玄	米	247俵				
小	麦	46俵	1,260kg			
ジャガイモ		448kg				
タマネギ		170kg				
ハトムギ		50kg				
アズキ		36kg				
クロマメ		30kg				
早生温州				9,098kg		
巨 峰				887kg		
マスカットベリーA				1,643kg		
ウ	メ			120kg		
ナ	シ			308kg		
リンゴ				270kg		
カ	キ			53kg		
キュウリ				7,424kg		
メロン				1,533個		
セルリー				4,440kg		
サツマイモ				210kg		
シクラメン				857鉢		
鉢	物			324鉢		
生牛乳					50,012kg	
バター					39個	
卵					80.25kg	
肉用牛					5頭	
山羊					2頭	
カボチャ						71個
ダイコン						590本
トマト						44kg
ウ	リ					17kg

昭和62年度農畜産物収入実績

単位；千円

品 目	作 物	機 械	果 樹	施設園芸	畜 産	研究部長	計
玄 米	4,165						4,165
小 麦	488	41					529
ジャガイモ	35						35
タマネギ	8						8
ハトムギ	12						12
アズキ	17						17
クロマメ	15						15
早生温州			550				550
巨 峰			357				357
マスカットベリーA			380				380
ウ メ			28				28
ナ シ			54				54
リ ン ゴ			46				46
カ キ			6				6
キュウリ				760			760
メ ロ ン				1,072			1,072
セルリー				523			523
サツマイモ				16			16
シクラメン				718			718
鉢 物				196			196
生 牛 乳					4,806		4,806
バ タ ー					10		10
卵					9		9
肉 用 牛					2,050		2,050
山 羊					9		9
カボチャ						6	6
ダイコン						11	11
ト マ ト						5	5
ウ リ						1	1
計	4,740	41	1,421	3,285	6,884	23	16,394

昭和62年度学内公費移算実績（施設園芸）

単位；千円

大きさ	貸 鉢			計
	大 鉢	中 鉢	小 鉢	
数 量	216	828	996	2,040
金 額	324	828	498	1,650

昭和 62 年度 経 営 支 出 実 績

単位；千円

費 目	作 物	機 械	果 樹	施設園芸	畜 産	計
種 苗 費	26	—	—	485	367	878
肥 料 費	368	59	184	159	971	1,741
農 業 薬 剤 費	527	168	335	84	51	1,165
光 熱 動 力 費	112	280	232	59	289	972
その他の諸材料費	421	120	796	1,274	586	3,197
水 利 費	—	—	—	—	—	—
賃借量及び料費	—	—	35	37	202	274
飼 料 費	—	—	—	—	2,948	2,948
獣医師料及び医薬品	—	—	—	—	146	146
建物及び土地改良費	—	32	357	147	—	536
農 機 具 費	490	747	1,337	467	428	3,469
雇 用 費	—	—	1,877	1,622	258	3,757
そ の 他 費	132	74	—	18	—	224
計	2,076	1,480	5,153	4,352	6,246	19,307

作物研究室

1. 昨年度の収支実績

第1表 収入実績

費目	生産量	生産額(円)
玄米	247 俵	4,165,534
コムギ	46 俵	488,371
ジャガイモ	448 kg	35,840
黒豆	30 kg	15,000
アズキ	36 kg	17,750
タマネギ	170 kg	8,500
ハトムギ	50 kg	12,000
計		4,742,995

第2表 支出実績

費目	金額(円)
種苗費	26,850
肥料費	368,800
農薬費	527,190
燃料費	112,920
農機具費	490,958
諸材料費	421,494
工事費	0
その他	132,966
計	2,081,178

2. 生産概況

- 1) 水稻：分蘖期以降の長雨に伴う低温・日照不足による穎花数の減少と開花の遅延，および開花期の台風害と以後の低温・日照不足による登熟歩合の低下により減収。品質も低下した。
- 2) 小麦：ニシカゼコムギを導入した。播種期がやや遅れたが登熟期の好天に恵まれやや増収した。
- 3) 豆類：ダイズは播種期の長雨による出芽不良と着莢数の減少および子実の小型化で収量が大幅減となった。
- 4) ジャガイモ：春作は生育良好で平年作。秋作は病中害および湿害のため減収した。

3. 直接費

- 1) 表区水田の暗渠排水工事および新圃の灌水工事が完了した。
- 2) 病中害の多発により防除費がかさんだ。
- 3) 作業農機具の老朽化が進み，修理費が増加した。

4. 主要購入機器

なし

機 械 研 究 室

1. 昨年度の収支実績

1) 収入

第1表 収 入 実 績

品 目	生産量 (kg)	生産額 (千円)
コ ム ギ	1,260	41

2) 支出

第2表 支 出 実 績

費 目	金 額 (千円)
肥 料 費	59
農 業 薬 剤 費	168
光 熱 動 力 費	280
建物及び土地改良設備費	32
農 機 具 費	747
そ の 他 の 諸 材 料 費	120
そ の 他	74
計	1,480

2. 生 産 概 況

1) コムギ

チクシコムギ。適期栽培によって収量は420 kg/10a (全刈)であった。しかし、選別・調製が不良で品質低下を招いた。

2) クワ

カミキリの食害がみられたが、概ね生育良好で、家蚕遺伝子実験施設(現・遺伝子資源研究センター)に十分な葉量を供給できた。

3. 作業実績

1) 機械受託作業, 援助作業, 機械貸出の実績

第3表 機械受託作業実績

作業名	研究室					計	比率(%)
	作物	畜産	施設園芸	部長	事務部		
耕起	16.41	23.08		0.50		39.99	23.17
耕耘	24.42	36.42		1.83		62.67	36.31
中耕・除草・培土		0.67		1.17		1.84	1.06
覆土・鎮圧		4.26				4.26	2.47
代掻	17.50					17.50	10.14
牽引運搬		1.00		1.00		2.00	1.16
作溝			0.50	1.17		1.67	0.97
草刈				0.25	8.50	8.75	5.07
心土破碎		20.43		1.50		21.93	12.70
灌水				3.00		3.00	1.74
掘削	0.50	1.50	1.25	1.25	0.33	4.83	2.80
その他			1.83	1.83	0.50	4.16	2.41
計	58.83	87.36	3.58	13.50	9.33	172.60	100
比率(%)	34.09	50.61	2.07	7.82	5.41	100	

単位；人・時間

第4表 援助作業実績

作業名	研究室				計	比率(%)
	作物	施設園芸	部長	事務部		
収穫	12.00				12.00	37.50
作溝			5.00		5.00	15.62
整備・点検		2.00			2.00	6.25
標識取付け				5.00	5.00	15.62
その他	1.00		5.00	2.00	8.00	25.00
計	13.00	2.00	10.00	7.00	32.00	100
比率(%)	40.62	6.25	31.25	21.87	100	

単位；人・時間

第5表 機械貸出実績

機 械 名	研 究 室					計	比率 (%)
	作 物	畜 産	果 樹	施設園芸	事務部		
ト ラ ク タ	137.93	62.49	17.17	32.72	2.50	252.81	53.26
耕 転 機	57.50	1.50		2.00		61.00	12.85
モ ア	5.50		12.00	17.00	20.00	54.50	11.48
動力噴霧機				29.96	7.00	36.96	7.79
バックホー	31.33	38.08				69.41	14.62
計	232.26	102.07	29.17	81.68	29.50	474.68	100
比率 (%)	48.93	21.50	6.15	17.21	6.21	100	

単位；時間

2) 考察

- 1) 機械受託作業； 173人・時間。対前年度42人・時間，20%減。作業別比率は例年通り耕耘（かくはん耕）が最も大きく，全受託作業の36%に及んだ。研究室別では，畜産研究室，作物研究室，部長，事務部の順で51%，34%，8%，5%であった。
- 2) 援助作業； 32人・時間。対前年度47人・時間，59%減。収穫をはじめ，水稻に関する作業が著しく減少した。
- 3) 機械貸出； 475 時間。対前年度219 時間，86%大幅増。貸出機械別では，動噴を除いて各機械とも増加。とりわけ，大型トラクタは100 時間増加した。

4. 主要購入機器

- 1) トラクタ クボタL1-225。

5. トラクタ類の稼働実績

機械研究室の主要トラクタ5台とバックホー1台について月別稼働実績を第6表に示す。表中の数字はアワメータによる使用時間である。前年度に比べて全体で180時間，34%増加した（次頁参照）。

6. その他

1) 犁耕会

ティラと和犁による犁耕技術の伝承と研鑽を目的として，農業機械学講座と共同で第7回犁耕会を公開して実施した。

第6表 機械研究室保有のトラクタ、バックホーの稼働時間（アワメータ）

機種	1987年							1988年			年度 合計	月平均		
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月			2月	3月
FE35X	3.5	22.4	7.1*	0.0	0.2	0.9	4.6*	1.1	0.0	1.3	0.0	0.3	41.4	3.45
MF135	4.2	31.3	13.1	1.2	9.0	5.9	13.7	10.2	3.7*	2.7	0.0	1.9	96.9	8.07
SD4000	12.3	12.1	27.6	9.1	4.0	21.0	7.1*	13.8	2.5	1.4	2.7	10.6	124.2	10.35
SE7340T	13.3	8.3	20.1	9.5	4.0	33.0	11.2	17.9	2.6*	2.9*	3.2	10.2	136.2	11.35
TL1900	29.3*	36.1*	40.8	20.5*	7.8	35.9	2.8	12.9*	5.7	15.8*	0.5	7.4*	215.5	17.95
1OHT	6.1	5.2	8.0	3.9	8.9	8.5	11.6	10.2	8.3	0.1	24.7	3.3	98.8	8.23
計	68.7	115.4	116.7	44.2	33.9	105.2	51.0	66.1	22.8	24.2	31.1	33.7	713.0	
平均	9.64	16.19	16.37	6.20	4.75	14.75	7.15	9.27	3.20	3.39	4.36	4.73		

注) FE35X ; マツセイフア-ガソントラクタFE35X (45.5PS), 1964年10月購入,
 MF135 ; " " MF135 (48 PS), 1972年12月 " ,
 SD4000 ; シバウラトラクタSD4000 (40 PS), 1979年2月 " ,
 SE7340T ; " SE7340T (73 PS), 1982年2月 " ,
 TL1900 ; キセキトラクタ TL1900 (19 PS), 1980年11月 " ,
 1OHT ; コマツバックホー1OHT (50 PS), 1980年2月 " .

注) * ; 修理, . ; 車検, 特定自主検査.

2) 大型特殊自動車等の免許

農場教職員，農場を利用する農学部教職員・大学院生（4講座）に対して免許取得のための援助を行った。農用トラクタ23名（留学生3名を含む），牽引12名が新たに免許を取得した。

果 実 研 究 室

1. 昨年度の収支実績

第1表 収 入 実 績

作物名	生産量(Kg)	収入(千円)
早 生 温 州	9,098	550
巨 峰	887	357
マスカットベリーA	1,643	380
ウ メ	120	28
ナ シ	308	54
リ ン ゴ	270	46
カ キ	53	6
計		1,421

第2表 支 出 実 績

費 目	金 額(千円)
肥 料 費	184
農 業 薬 剤 費	335
光 熱 動 力 費	232
諸 材 料 費	796
賃 貸 料 費	35
建 物 設 備 費	357
農 機 具 費	1,337
雇 用 費	1,877
計	5,153

2. 生 産 概 況

- 1) カンキツ：早生温州は全国的な表年であったが、本園では間伐を行ったために生産高は比較的低くなった。

第3表 最近5ヶ年間の早生温州の収量と品質

年 度	生産量 (kg)	収 量 (kg/10a)	糖 度 (Brix)	酸 (%)	果実の大きさ別収量(%)				
					3 L	2 L	L	M	S
58	21,787	1,816	9.9	0.80	1	5	21	36	11
59	10,824	902	10.4	0.67	12	27	26	24	37
60	21,409	1,784	10.4	0.68	12	24	31	25	8
61	13,218	1,102	10.9	0.65	3	16	34	30	15
62	9,098	758	11.0	0.69	28	23	26	13	10

2) ブドウ：巨峰は樹勢が比較的安定し、有核果が多くなった。また生産高も目標の10a当り約900kgに近く、品質も良くなった。マスカットベリー-Aは平年作であった。

第4表 最近5ヶ年間のブドウの収量と品質

年 度	品 種	生産量 (kg)	収 量 (kg/10a)	糖 度 (Brix)	備 考
58	巨 峰	1,236	1,236	18.3	
	マスカットベリー-A	1,584	1,218	17.2	果実生理障害
	ネオマスカット	3	25	16.4	"
	アレキサンドリア	102	1,020	18.2	
59	巨 峰	762	762	17.5	気象生理障害
	マスカットベリー-A	1,266	974	17.0	果実生理障害
	ネオマスカット	50	400	13.5	"
	アレキサンドリア	133	1,330	16.5	
60	巨 峰	468	468	17.8	気象生理障害
	マスカットベリー-A	1,572	1,209	17.5	台 風 害
	ネオマスカット	452	376	17.2	"
	アレキサンドリア	31	310	17.8	台風害・虫害
61	巨 峰	634	634	17.5	気象生理障害
	マスカットベリー-A	1,592	1,447	17.4	
62	巨 峰	887	887	16.8	
	マスカットベリー-A	1,643	1,263	17.0	

3) ウメは平年作, ナシ・リンゴは収穫高がしだいに増えて来た。ただし, リンゴ‘つがる’は8月中旬の収穫のために, 高温で着色が著しく不良であった。

4) その他の核果類等保存品種は試験研究に供試した。

3. 作業実績

第5表 作業実績

内 容	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
通常勤務	65.5	50.0	64.5	56.5	52.7	62.0	55.5	50.5	58.0	53.0	50.0	43.0	661.2
超過勤務	9.0	19.6	7.8	9.5	6.3	19.5	7.1	8.3	13.0	18.8	23.3	27.9	170.1
教官補助	0.5	1.0	1.6	4.5	2.5	1.5	1.0	1.0	2.8	2.0	1.0	2.5	21.9
臨時雇用	26.0	38.0	60.0	60.0	34.0	48.0	40.0	36.0	38.0	36.0	38.0	50.0	50.4
計	101	108.6	133.9	130.5	95.5	131.0	103.6	95.8	111.8	109.8	112.3	123.4	1,357.4
(種類別)													
みかん	9.7	7.5	6.3	47.0	21.5	25.0	18.8	69.1	23.6	3.2	42.6	63.8	338.1
ブドウ	30.8	37.2	85.8	41.9	25.2	48.3	9.0	5.8	17.6	49.9	3.9	8.2	363.6
品種保存	29.5	32.7	27.1	18.7	31.0	22.4	29.5	12.6	27.0	38.4	43.9	15.0	327.8
共 通	28.0	22.0	8.8	18.6	12.9	32.7	32.9	7.1	23.6	10.5	19.1	33.2	249.4
そ の 他	3.0	9.2	5.9	4.3	4.9	2.6	13.4	1.2	20.0	7.8	2.8	3.2	78.3

単位;時間

4. 主要購入機器

1) 人工気象器LH200RD 1台

2) ハンマーナイフモアR70 1台

施設園芸研究室

1. 昨年度の収支実績

1) 収入の部

(1) 生産物収入

第1表 作物別収入

作物	目標額	実績
キュウリ (春)	400,000 円	416,305 円
" (秋)	220,000	344,322
メロン (春)	640,000	729,100
" (秋)	640,000	343,700
セルリー	180,000	523,860
その他	62,000	16,800
小計	2,142,000	2,374,087
シクラメン	400,000	718,100
鉢物	90,000	196,210
小計	490,000	914,310
合計	2,632,000	3,288,397

昭和62年度生産物収入の目標額は当初2,632千円を見込み、9月末の再調査の際に3,005千円に修正した。ところが、年度末の実績は3,288,397円と年度当初の目標額はもとより、年度途中の修正額をも30万弱超過した。

作物別に見ると、キュウリは太らせて収穫する英国温室型キュウリを栽培しており、低、高温時の収量は多くを望めないが、目方がかさばるのと収穫の手間が幾分省ける長所を有する。収入面では春作、秋作ともに順調で、特に秋作は晴天に恵まれて目標額の約1.5倍にも達した。

メロンは、春作ではキュウリ同様順調で約9万円目標額をオーバーしたが、秋作では苦土欠症状が現われ玉延びが悪く、また偏平果も現われて目標額の約1/2に止まった。

セルリーは61年度の秋作キュウリの収穫を11月一杯続けた関係で、セルリーの定植が遅れ、そのため収穫が1部62年4月にずれ込み、164,774円を62年度分に持ち越した。62年度は61年度同様暖冬に恵まれた関係上、目標額の約2倍を計上した。

花卉では、シクラメンが約30万円、鉢物でも約10万円目標額を超過した。

(2) 貸鉢による移算

第2表 貸鉢数と移算額

部 署	大 鉢		中 鉢		小 鉢	
	鉢数	金 額	鉢数	金 額	鉢数	金 額
本 部	84	126,000円	360	360,000円	516	258,000円
工 学 部	48	72,000	12	12,000	24	12,000
理 学 部	—	—	36	36,000	48	24,000
農 学 部	36	54,000	108	108,000	156	78,000
演 習 林	12	18,000	24	24,000	36	18,000
医 学 部	12	18,000	24	24,000	24	12,000
病 院	24	36,000	84	84,000	60	30,000
薬 学 部	—	—	12	12,000	12	6,000
文 学 部	—	—	24	24,000	—	—
法 学 部	—	—	36	36,000	36	18,000
経 済 学 部	—	—	24	24,000	24	12,000
教 育 学 部	—	—	36	36,000	—	—
電 算 機 セ ン タ ー	—	—	36	36,000	36	18,000
中 央 図 書	—	—	12	12,000	24	12,000
小 計	216	324,000	828	828,000	996	498,000
合 計						1,650,000

昭和62年度も学内各部署より予算の移算を受けた。その金額は 165万円で昭和61年度と同額である。

2) 支出の部

支出の総額は4,356,263円で昭和61年度の約3%増であった。最も高い割合を占めるのは雇用費で37.2%、次が諸材料費の29.3%、種苗費11.1%、農機具費10.7%の順に低くなり、これら上位4費用で全体の9割弱を占めた。

第3表 支出実績

費目	金額	割合
種 苗 費	485,250 円	11.1 %
肥 料 費	159,100	3.7
農 業 薬 剤 費	84,705	1.9
光 熱 動 力 費	59,210	1.4
その他の諸材料費	1,274,300	29.3
賃借料及び料費	37,836	0.9
建物及び土地改良費	147,000	3.4
農 機 具 費	467,290	10.7
雇 用 費	1,622,600	37.2
そ の 他 費	18,972	0.4
計	4,356,263	100.0

2. 生産概要

第4表 作物別生産量

作物	予 想	実 績
キュウリ (春)	4,000 kg	4,498 kg
" (秋)	2,200 "	2,926 "
メロン (春)	800 個	894 個
" (秋)	800 "	639 "
セルリー	3,000 kg	4,440 kg
シクラメン	500 鉢	857 鉢
鉢 物	300 "	324 "

1) キュウリ

春作は予想収量を約 500kg, 秋作は約 700kg上回った。

2) メロン

春作は順調で約 100個予想を上回ったが、秋作は苦土欠乏の発症により、果実が小さく偏平になった関係もあり約160個下回った。

3) セルリー

昭和61年度に収穫を見込まれた分約 1,000kgを除いても、昭和62年度は 3,370kgと約10%

予想収量を超過した。

4) シクラメン

ダニ、スリップスなどの害虫の防除を徹底したために、開花は早まり、品質的にも優れ、販売鉢数も857鉢に達した。

3. 作業実績

第5表 作業実績

作 業	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
キュウリ	13.5	22.5	28	15.5	22	19.5	21.5	10.5	4	3	6.5	13	179.5
メロン	11	23	6	31	25	10.5	15	1	—	—	3	7	132.5
セルリー	3.5	—	—	0.5	1	4	2	6	7.5	5.5	6.5	21.5	58
シクラメン	8	6	5	4	5	8	8	7	10	5	8	8	82
鉢物	16	17.5	16	17	15.5	18	15	18	18	18	18	17	204
その他花卉	7	6	6	7	6	4	4	4	6	6	4	7	67
学生実習	15	6	11.5	3.5	2	1	10.5	9	—	—	11	9	66.5
研修	3	2	2	2	2	2	6	2	2	3	3	3	32
その他	29	17	30.5	28.5	24.5	26.5	23.5	28	40.5	42	30.5	29.5	350
合計	106	100	105	109	103	93.5	105.5	85.5	88	82.5	90.5	115	1,183.5
職 員	60	55.5	64.5	61.5	61.5	58.5	60	58.5	58.5	55.5	27	64.5	715.5
雇 用	46	44.5	40.5	47.5	41.5	35	45.5	27	29.5	27	33.5	50.5	468

単位；日

全作業中に占める割合の高いものは、まずその他が第1位で29.6%、2位鉢物17.2%、3位キュウリ15.2%、4位メロン11.2%で、いずれも10%以上の割合を示した。第1位がその他と言うことは、今後この数値を吟味して不必要な作業は出来るだけ整理することが必要である。

畜 産 研 究 室

1. 昨年度の収支実績

1) 収 入

61年度までは、牛乳は函詰にして出荷していたので、61年度の牛乳による収入は1,000万円以上あったが、62年度からは生牛乳で出荷するようになったため、62年度の牛乳による収入は約1/2の480万円となった（第1表）。

2) 支 出

牛乳の函詰処理に必要であった函代金および燃料費が不要になり、これまでより約 150万円減少した（第2表）。

第1表 収 入 実 績

費 目	生 産 量	金 額 (千円)
生 牛 乳	50,012	4,806
バ タ ー	39 個	10
卵	80.25 kg	9
肉 用 牛	5 頭	2,050
廃 牛	0 頭	
山 羊	2 頭	9
計		6,884

第2表 支 出 実 績

費 目	金 額 (千円)
種 苗 費	367
肥 料 費	971
農 業 薬 剤 費	51
光 熱 動 力 費	289
諸 材 料 費	586
賃 借 料 及 料 金 (機 受)	202
飼 料 費	2,948
獣 医 及 薬 品 費	146
雇 用 費	258
農 機 具 費	428
教 官 研 究 費	389
そ の 他 (備 品 等 別 予 算)	—
計	6,635

2. 生 産 概 況

1) 牛 乳

繁殖効率が悪かったため（第4表）、乳量は予定より減少した（第3表）。しかしながら、一頭当りの平均乳量はほとんど変化はなかった。

第3表 年度別乳量

年 度	58	59	60	61	62
乳量(kg)	64,652	56,574	51,442	61,332	56,331

第4表 乳牛個別分娩間隔および乳量

乳 牛 名	生年月日	産次数	分娩月日	子の性	前回分娩 間隔(日)	年間乳量(kg)
アルベルモント メドレーク	56. 6.28	2			61. 7.30	6656.0
43 リアリー メドレーク	56. 6.16	2			61. 1.10	5112.6
スプリング ミソノ ジョイ	58. 8.18	1			60.12.16	3236.4
リアリー ミソノ メドレーク	58. 8.25	1			60.10.30	3649.2
ロイブルック R.メドレーク	58. 3.26	2			62. 2.16	6325.8
スプリング アイバンホー	57.10.12	2			61. 8. 9	5955.4
アルベルモント L.M.	59. 4.21	1			61. 6.15	4742.6
アルベルモント B.D.R.	53. 6.30	5			61. 6.29	1177.0
スプリング ミリー アイバンホー	60. 7.14	1	63. 2.24	雄		646.8
アルベルモント B.D.F.	57. 7. 7	2			60.12.25	3473.6
アルベルモント R.ベティー	57.12.29	2	63. 1. 7	雌	61. 3.30	648 4286.0
リアリー R.コンフィダンス	54.10. 8	5			61.12.31	6175.8
リアリー S リワード	58. 1.20	2			61. 6.29	4893.8

2) 肉牛

第5表に示すとおり、出荷した5頭のうち、和牛が2頭で一日平均増体量は538gとかなり低かった。またホルスタイン牝は3頭で平均860gとなり、前年度より少々悪かったようである。(次頁参照)

3) 飼料作物

飼料作物の圃場別収量、月別収量および用途別利用量はそれぞれ第6、7、8表に示すとおりである。

生草(特にライグラス)は水分含量が多く、そのまま給与した場合、牛乳の脂肪率、固形分率を低下させることが示唆されたため、生草給与を少なくした。その結果、収量はこれまでの約1/2に減少した。今後は冬作物としては、エンバクを多く栽培し、サイレージを多量に利用できるよう計画した方が良くように考えられた。

第5表 肉用牛の増体量

	肥育日数	1日増体重(g)	肥育期間	備考
乳牝 1	283	667	62. 4. 1(434)~63. 1. 7(623)	出荷
2	283	834	62. 4. 1(555)~ " (791)	"
3	283	1,081	" (500)~ " (806)	"
4	365	835	" (375)~63. 3.31(670)	
5	365	961	" (379)~ " (730)	
6	365	808	" (370)~ " (665)	
7	365	877	" (334)~ " (654)	
8	365	899	" (337)~ " (665)	
9	336	708	62. 4.30(302)~ " (540)	
10	242	798	62. 8. 3(237)~ " (430)	
和牝	252	560	62. 4. 1(474)~62.12. 8(615)	出荷
牝	252	516	" (470)~ " (600)	"

第6表 圃場別飼料作物別収量

圃場	ライ グラス	エンバク	カブ	デント コーン	ギニア グラス	竜北 グラス	計
鶴見 1	6,150						6,150
2	14,400						14,400
3	17,600	16,350					33,950
4				4,460			4,460
5	11,000						11,000
新園 4	9,330			28,270			37,600
7	1,300			10,710			12,010
桑園 1	11,000			8,950			19,950
実験41			2,800				2,800
放牧 2	10,200						10,200
3	4,250						4,250
表 21				5,800		1,000	6,800
旧園 8	14,260						14,260
ボタ					1,380		1,380
計	99,490	16,350	2,800	58,190	1,380	1,000	179,210

単位：t

第7表 月別飼料作物収量

月	ライ グラス	エンバク	カ ブ	デント コーン	ギニア グラス	竜北 グラス	計
61. 4	15,510						15,510
5	25,400						25,400
6	27,650						27,650
7	5,800			5,800		1,000	12,600
8				47,930			47,930
9				4,460			4,460
10							—
11					1,380		1,380
12	2,100						2,100
62. 1	3,860	16,350					20,210
2	6,870						6,870
3	12,300		2,800				15,100
計	99,490	16,350	2,800	58,190	1,380	1,000	179,210

単位：t

第8表 飼料作物別利用形態

	青 刈	サイ レ ージ		乾 草	計
		コンクリート	スチール		
ライグラス	47,790	8,700		43,000	99,490
カ ブ	2,800				2,800
デントコーン	5,800	8,950	43,440		58,190
ギニアグラス	1,380				1,380
竜北グラス	1,000				1,000
エンバク		16,350			16,350
計	58,770	34,000	43,440	43,000	179,210

単位：t

4) 堆 厩 肥

厩肥生産量および堆肥利用量は第9表に示すとおり、187t、96t（51.5%）であった。
このうち47tは馬術部よりひきとったものである。

第9表 厩肥生産および利用

年月	生産量	鶴見1	鶴見2	鶴見3	新園4	7	旧園	桑1	部長	その他	計
61. 4	13.9				10.6	6.0					16.6
5	20.2										—
6	7.9	6.0									6.0
7	20.9		7.5	16.5			9.0				33.0
8	18.6										—
9	9.4										—
10	12.0										—
11	7.6	12.0								28.6	40.6
12	29.3										—
61. 1	15.4										—
2	15.3										—
3	16.4										—
計	186.9	18.0	7.5	16.5	10.6	6.0	9.0	—	—	28.6	96.2

単位：t